

4-2 直接スポーツ観戦種目

表4-1は種目別の直接スポーツ観戦状況である。まず、回答者全体において観戦率が高かった上位10種目を特定し、18歳以上人口を乗じて推計観戦人口を算出した。観戦率は「プロ野球(NPB)」が13.7%と最も高く、推計観戦人口は1,452万人である。2位から5位には「高校野球」5.8%、「Jリーグ(J1、J2、J3)」5.5%、「マラソン・駅伝」3.8%、「サッカー(高校、大学、JFLなど)」1.9%が入り、2016年と同じ順位であった。また、上位10種目の中には野球、サッカー、バスケットボールの観戦種目が複数入る。

次に、各種目の観戦者における観戦回数の平均値を算出した後に推計観戦人口を乗じ、延べ観戦者数である推計動員数を算出した。観戦回数が最も多いのは「サッカー(高校、大学、JFLなど)」の7.14回で、次いで「バスケットボール(高校、大学、WJBLなど)」が3.38回、「アマチュア野球(大学、社会人など)」が3.37回である。推計動員数は「プロ野球(NPB)」が3,035万人と最も多く、「高校野球」1,863万人、「Jリーグ(J1、J2、J3)」1,644万人と続く。

表4-2には、直接スポーツ観戦率の上位5種目を性別に示した。「プロ野球(NPB)」が男性16.6%、女性10.9%と最も高く、男性が女性よりも5.7ポイント高い。

【表4-1】種目別直接スポーツ観戦状況(複数回答)

順位	観戦種目	2018年(n=3,000)				2016年(n=3,000)			
		観戦率(%)	①推計観戦人口(万人)	②観戦回数(回/年)	③推計動員数(①×②)(万人)	観戦率(%)	④推計観戦人口(万人)	⑤観戦回数(回/年)	⑥推計動員数(④×⑤)(万人)
1	プロ野球(NPB)	13.7	1,452	2.09	3,035	15.6	1,658	2.33	3,863
2	高校野球	5.8	615	3.03	1,863	5.5	585	3.21	1,878
3	Jリーグ(J1、J2、J3)	5.5	583	2.82	1,644	5.3	563	3.13	1,762
4	マラソン・駅伝	3.8	403	1.34	540	3.9	415	1.42	589
5	サッカー(高校、大学、JFLなど)	1.9	201	7.14	1,435	2.4	255	3.20	816
6	プロバスケットボール(Bリーグ)	1.7	180	1.65	297	0.8	85	2.36	201
7	アマチュア野球(大学、社会人など)	1.6	170	3.37	573	1.5	159	2.37	377
8	大相撲	1.5	159	1.36	216	1.2	128	1.15	147
	バスケットボール(高校、大学、WJBLなど)	1.5	159	3.38	537	1.4	149	3.98	593
10	プロゴルフ	1.2	127	1.28	163	1.3	138	1.80	248

注1) 2018年の推計観戦人口:18歳以上人口の106,011,547人(2017年1月1日時点の住民基本台帳人口)に観戦率を乗じて算出。  
 注2) 2016年の推計観戦人口:18歳以上人口の106,300,916人(2015年1月1日時点の住民基本台帳人口)に観戦率を乗じて算出。  
 資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

【表4-2】種目別直接スポーツ観戦率(性別:複数回答)

男性(n=1,491)			女性(n=1,509)		
順位	観戦種目	観戦率(%)	順位	観戦種目	観戦率(%)
1	プロ野球(NPB)	16.6	1	プロ野球(NPB)	10.9
2	高校野球	7.7	2	Jリーグ(J1、J2、J3)	4.4
3	Jリーグ(J1、J2、J3)	6.5	3	高校野球	3.9
4	マラソン・駅伝	4.2	4	マラソン・駅伝	3.3
5	アマチュア野球(大学、社会人など)	2.2	5	サッカー(高校、大学、JFLなど)	1.7
				バレーボール(高校、大学、Vリーグなど)	1.7

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

「高校野球」は男性の2位(7.7%)と女性の3位(3.9%)に、「Jリーグ(J1、J2、J3)」は男性の3位(6.5%)と女性の2位(4.4%)に入る。4位は男女ともに「マラソン・駅伝」(男性4.2%、女性3.3%)であり、5位は男性が「アマチュア野球(大学、社会人など)」2.2%、女性が同率で「サッカー(高校、大学、JFLなど)」1.7%であった。

表4-3に示す年代別の直接スポーツ観戦率上位5種目をみると、18・19歳は「高校野球」12.7%が最も高く、次いで「プロ野球(NPB)」9.9%が2位、「サッカー(高校、大学、JFLなど)」Jリーグ(J1、J2、J3)」7.0%が同率で

3位である。20歳代以上はすべての年代で「プロ野球(NPB)」の観戦率が最も高い。2位と3位には、20歳代から50歳代までは「Jリーグ(J1、J2、J3)」と「高校野球」が入る。また、50歳代以上で「大相撲」が、60歳代以上で「プロゴルフ」が上位5種目に入るなどの特徴がある。

表4-4には、今後、直接スポーツ観戦を希望する種目を示した。「プロ野球(NPB)」が26.3%と最も高く、「サッカー日本代表試合(五輪代表含む)」と「フィギュアスケート」が同率で16.0%であった。また、直接観戦率では上位10種目に入らなかった「メジャーリーグ(アメリカ大リー

【表4-3】種目別直接スポーツ観戦率(年代別:複数回答)

18・19歳(n=71)			20歳代(n=381)			30歳代(n=480)			40歳代(n=595)		
順位	観戦種目	観戦率(%)	順位	観戦種目	観戦率(%)	順位	観戦種目	観戦率(%)	順位	観戦種目	観戦率(%)
1	高校野球	12.7	1	プロ野球(NPB)	16.5	1	プロ野球(NPB)	14.8	1	プロ野球(NPB)	14.1
2	プロ野球(NPB)	9.9	2	Jリーグ(J1、J2、J3)	6.6	2	Jリーグ(J1、J2、J3)	7.7	2	高校野球	9.1
3	サッカー(高校、大学、JFLなど)	7.0	3	高校野球	5.2	3	高校野球	3.3	3	Jリーグ(J1、J2、J3)	6.7
	Jリーグ(J1、J2、J3)	7.0	4	アマチュア野球(大学、社会人など)	3.4	4	プロバスケットボール(Bリーグ)	3.1	4	マラソン・駅伝	5.2
5	バスケットボール(高校、大学、WJBLなど)	4.2	5	サッカー(高校、大学、JFLなど)	2.6	5	マラソン・駅伝	1.9	5	サッカー(高校、大学、JFLなど)	3.5

  

50歳代(n=481)			60歳代(n=564)			70歳以上(n=428)		
順位	観戦種目	観戦率(%)	順位	観戦種目	観戦率(%)	順位	観戦種目	観戦率(%)
1	プロ野球(NPB)	14.3	1	プロ野球(NPB)	11.0	1	プロ野球(NPB)	12.9
2	Jリーグ(J1、J2、J3)	6.4	2	マラソン・駅伝	5.0	2	高校野球	6.1
3	高校野球	4.6	3	高校野球	4.8	3	マラソン・駅伝	4.0
4	マラソン・駅伝	3.5	4	Jリーグ(J1、J2、J3)	3.0	4	大相撲	2.6
5	大相撲	2.9	5	大相撲	1.8	5	プロゴルフ	2.3
				プロゴルフ	1.8			

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

【表4-4】種目別直接スポーツ観戦希望状況(複数回答:n=3,000)

順位	観戦種目	観戦希望率(%)	継続観戦希望(リピーター)率(%)	新規観戦希望率(%)	推計観戦希望人口(万人)	推計継続観戦希望(リピーター)人口(万人)	推計新規観戦希望人口(万人)
2	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	16.0	0.5	15.5	1,696	53	1,643
	フィギュアスケート	16.0	0.4	15.6	1,696	42	1,654
4	高校野球	13.1	4.2	8.8	1,389	445	933
5	Jリーグ(J1、J2、J3)	11.5	4.2	7.3	1,219	445	774
6	大相撲	10.4	0.9	9.5	1,103	95	1,007
7	マラソン・駅伝	7.1	2.4	4.8	753	254	509
8	メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	6.8	0.0	6.8	721	0	721
9	海外プロサッカー(欧州、南米など)	6.6	0.1	6.5	700	11	689
	プロテニス	6.6	0.3	6.3	700	32	668

注) 推計観戦希望人口:18歳以上人口の106,011,547人(2017年1月1日時点の住民基本台帳人口)に観戦希望率を乗じて算出。  
 資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

4-2 直接スポーツ観戦種目

表4-1は種目別の直接スポーツ観戦状況である。まず、回答者全体において観戦率が高かった上位10種目を特定し、18歳以上人口を乗じて推計観戦人口を算出した。観戦率は「プロ野球(NPB)」が13.7%と最も高く、推計観戦人口は1,453万人である。2位から5位には「高校野球」5.8%、「Jリーグ(J1、J2、J3)」5.5%、「マラソン・駅伝」3.8%、「サッカー(高校、大学、JFLなど)」1.9%が入り、2016年と同じ順位であった。また、上位10種目の中には野球、サッカー、バスケットボールの観戦種目が複数入る。

次に、各種目の観戦者における観戦回数の平均値を算出した後に推計観戦人口を乗じ、延べ観戦者数である推計動員数を算出した。観戦回数が最も多いのは「サッカー(高校、大学、JFLなど)」の7.14回で、次いで「バスケットボール(高校、大学、WJBLなど)」が3.38回、「アマチュア野球(大学、社会人など)」が3.37回である。推計動員数は「プロ野球(NPB)」が3,037万人と最も多く、「高校野球」1,863万人、「Jリーグ(J1、J2、J3)」1,644万人と続く。

表4-2には、直接スポーツ観戦率の上位5種目を性別に示した。「プロ野球(NPB)」が男性16.6%、女性10.9%と最も高く、男性が女性よりも5.7ポイント高い。

【表4-1】種目別直接スポーツ観戦状況(複数回答)

順位	観戦種目	2018年(n=3,000)				2016年(n=3,000)			
		観戦率(%)	①推計観戦人口(万人)	②観戦回数(回/年)	③推計動員数(①×②)(万人)	観戦率(%)	④推計観戦人口(万人)	⑤観戦回数(回/年)	⑥推計動員数(④×⑤)(万人)
1	プロ野球(NPB)	13.7	1,453	2.09	3,037	15.6	1,658	2.33	3,863
2	高校野球	5.8	615	3.03	1,863	5.5	585	3.21	1,878
3	Jリーグ(J1、J2、J3)	5.5	583	2.82	1,644	5.3	563	3.13	1,762
4	マラソン・駅伝	3.8	403	1.34	540	3.9	415	1.42	589
5	サッカー(高校、大学、JFLなど)	1.9	202	7.14	1,442	2.4	255	3.20	816
6	プロバスケットボール(Bリーグ)	1.7	180	1.65	297	0.8	85	2.36	201
7	アマチュア野球(大学、社会人など)	1.6	170	3.37	573	1.5	159	2.37	377
8	大相撲	1.5	159	1.36	216	1.2	128	1.15	147
	バスケットボール(高校、大学、WJBLなど)	1.5	159	3.38	537	1.4	149	3.98	593
10	プロゴルフ	1.2	127	1.28	163	1.3	138	1.80	248

注1) 2018年の推計観戦人口:18歳以上人口(20歳以上は2017年1月1日時点の住民基本台帳人口、18・19歳は同時期の住民基本台帳人口のうち、15~19歳の人口に2015年の国勢調査から得られた18歳および19歳の人口割合を乗じて得られた推計値を利用した)の106,056,838人に観戦率を乗じて算出。  
 注2) 2016年の推計観戦人口:18歳以上人口(20歳以上は2015年1月1日時点の住民基本台帳人口、18・19歳は同時期の住民基本台帳人口のうち、15~19歳の人口に2010年の国勢調査から得られた18歳および19歳の人口割合を乗じて得られた推計値を利用した)の106,300,916人に観戦率を乗じて算出。

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

【表4-2】種目別直接スポーツ観戦率(性別:複数回答)

男性(n=1,491)			女性(n=1,509)		
順位	観戦種目	観戦率(%)	順位	観戦種目	観戦率(%)
1	プロ野球(NPB)	16.6	1	プロ野球(NPB)	10.9
2	高校野球	7.7	2	Jリーグ(J1、J2、J3)	4.4
3	Jリーグ(J1、J2、J3)	6.5	3	高校野球	3.9
4	マラソン・駅伝	4.2	4	マラソン・駅伝	3.3
5	アマチュア野球(大学、社会人など)	2.2	5	サッカー(高校、大学、JFLなど)	1.7
				バレーボール(高校、大学、Vリーグなど)	1.7

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

「高校野球」は男性の2位(7.7%)と女性の3位(3.9%)に、「Jリーグ(J1、J2、J3)」は男性の3位(6.5%)と女性の2位(4.4%)に入る。4位は男女ともに「マラソン・駅伝」(男性4.2%、女性3.3%)であり、5位は男性が「アマチュア野球(大学、社会人など)」2.2%、女性が同率で「サッカー(高校、大学、JFLなど)」「バレーボール(高校、大学、Vリーグなど)」1.7%であった。

表4-3に示す年代別の直接スポーツ観戦率上位5種目をみると、18・19歳は「高校野球」12.7%が最も高く、次いで「プロ野球(NPB)」9.9%が2位、「サッカー(高校、大学、JFLなど)」「Jリーグ(J1、J2、J3)」7.0%が同率で

3位である。20歳代以上はすべての年代で「プロ野球(NPB)」の観戦率が最も高い。2位と3位には、20歳代から50歳代までは「Jリーグ(J1、J2、J3)」と「高校野球」が入る。また、50歳代以上で「大相撲」が、60歳代以上で「プロゴルフ」が上位5種目に入るなどの特徴がある。

表4-4には、今後、直接スポーツ観戦を希望する種目を示した。「プロ野球(NPB)」が26.3%と最も高く、「サッカー日本代表試合(五輪代表含む)」と「フィギュアスケート」が同率で16.0%であった。また、直接観戦率では上位10種目に入らなかった「メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)」

【表4-3】種目別直接スポーツ観戦率(年代別:複数回答)

18・19歳(n=71)			20歳代(n=381)			30歳代(n=480)			40歳代(n=595)		
順位	観戦種目	観戦率(%)	順位	観戦種目	観戦率(%)	順位	観戦種目	観戦率(%)	順位	観戦種目	観戦率(%)
1	高校野球	12.7	1	プロ野球(NPB)	16.5	1	プロ野球(NPB)	14.8	1	プロ野球(NPB)	14.1
2	プロ野球(NPB)	9.9	2	Jリーグ(J1、J2、J3)	6.6	2	Jリーグ(J1、J2、J3)	7.7	2	高校野球	9.1
3	サッカー(高校、大学、JFLなど)	7.0	3	高校野球	5.2	3	高校野球	3.3	3	Jリーグ(J1、J2、J3)	6.7
	Jリーグ(J1、J2、J3)	7.0	4	アマチュア野球(大学、社会人など)	3.4	4	プロバスケットボール(Bリーグ)	3.1	4	マラソン・駅伝	5.2
5	バスケットボール(高校、大学、WJBLなど)	4.2	5	サッカー(高校、大学、JFLなど)	2.6	5	マラソン・駅伝	1.9	5	サッカー(高校、大学、JFLなど)	3.5

50歳代(n=481)			60歳代(n=564)			70歳以上(n=428)		
順位	観戦種目	観戦率(%)	順位	観戦種目	観戦率(%)	順位	観戦種目	観戦率(%)
1	プロ野球(NPB)	14.3	1	プロ野球(NPB)	11.0	1	プロ野球(NPB)	12.9
2	Jリーグ(J1、J2、J3)	6.4	2	マラソン・駅伝	5.0	2	高校野球	6.1
3	高校野球	4.6	3	高校野球	4.8	3	マラソン・駅伝	4.0
4	マラソン・駅伝	3.5	4	Jリーグ(J1、J2、J3)	3.0	4	大相撲	2.6
5	大相撲	2.9	5	大相撲	1.8	5	プロゴルフ	2.3
				プロゴルフ	1.8			

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

【表4-4】種目別直接スポーツ観戦希望状況(複数回答:n=3,000)

順位	観戦種目	観戦希望率(%)	継続観戦希望(リピーター)率(%)	新規観戦希望率(%)	推計観戦希望人口(万人)	推計継続観戦希望(リピーター)人口(万人)	推計新規観戦希望人口(万人)
2	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	16.0	0.5	15.5	1,697	53	1,644
	フィギュアスケート	16.0	0.4	15.6	1,697	42	1,654
4	高校野球	13.1	4.2	8.8	1,389	445	933
5	Jリーグ(J1、J2、J3)	11.5	4.2	7.3	1,220	445	774
6	大相撲	10.4	0.9	9.5	1,103	95	1,008
7	マラソン・駅伝	7.1	2.4	4.8	753	255	509
8	メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	6.8	0.0	6.8	721	0	721
9	海外プロサッカー(欧州、南米など)	6.6	0.1	6.5	700	11	689
	プロテニス	6.6	0.3	6.3	700	32	668

注) 推計観戦希望人口:18歳以上人口(20歳以上は2017年1月1日時点の住民基本台帳人口、18・19歳は同時期の住民基本台帳人口のうち、15~19歳の人口に2015年の国勢調査から得られた18歳および19歳の人口割合を乗じて得られた推計値を利用した)の106,056,838人に、観戦希望率を乗じて算出。

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018